

標準委員会 発電炉専門部会 定期安全レビュー分科会

第0回 (P6Ph2SC0) 議事録

日 時： 2007年11月6日(火) 13:30 ～ 16:45

場 所： 東京都 仏教伝道センタービル 7階 見の間

出席者： 上野委員 (MRI)、及川委員 (JAEA)、大橋委員 (中部電)、岡本委員 (東大)、
奥田委員 (原電)、河井委員 (原技協)、小林委員 (JNES)、田畑委員 (関電)、
成宮委員 (関電)、平野委員 (JAEA)、古橋委員 (東電)、前田委員 (保安院)、
三浦委員 (JNES)、持丸委員 (保安院)、

事務局：村上 (原子力学会)

常時参加者： 赤間 (東北電)、大家 (関電)、鞍本 (電発)、小武守 (中国電)、
森下 (九電)、吉田 (四電)

傍聴希望者： 秋月 (JNES)、帰山 (関電)、上村 (東電) (敬省略)

配付資料

P6Ph2SC0-1-1 原子力発電所の定期安全レビュー実施基準に関する改訂について

P6Ph2SC0-1-2 定期安全レビュー分科会委員名簿

P6Ph2SC0-2 日本原子力学会標準委員会発電炉専門部会 PSR 分科会配布資料

P6Ph2SC0-3-1 PSR 標準:2006 策定時の議論及びPSR 標準の内容について

P6Ph2SC0-3-2 PSR 標準改訂に係る論点について

P6Ph2SC0-4 PSR 標準の改訂に係るスケジュール (案) について

参考資料

P6Ph2SC0-参考1 定期安全レビューの概要について

P6Ph2SC0-参考2 保安検査実績からの分析及び課題について

P6Ph2SC0-参考3 PSR 検討方針(案)と今後の進め方

議事及び主な質疑応答

(1) 出席者確認・資料確認

原子力学会事務局より、出席者数を確認し全委員数15名のうち14名が出席しているため、本分科会の定足数を満たすことが確認された。議事次第に基づき配布資料の確認を行った。

(2) 分科会再開の趣旨説明

原子力学会事務局より、資料P6Ph2SC0-1-1 および0-1-2を使用して本分科会の再開趣旨、

スケジュール、委員名簿等について説明があった。

(3) 標準委員会の活動について

原子力学会事務局より、資料 P6Ph2SC0-2 を使用して、標準委員会活動について、①組織図、②標準委員会規程、③標準委員会運営内規、④標準委員会専門部会運営通則、⑤会議進行の基本手順、⑥標準作成の手引き、⑦JIS Z 8301 最新版の適用の考え方について説明があった。

(4) 役員選出

原子力学会事務局より役員の選出について説明があり、投票によって主査を選出した。投票の結果、平野委員 13 票、田畑委員 1 票となり、平野委員が主査に選出された。

平野主査が、岡本委員を副主査に指名した。平野主査、岡本副主査が相談の上、成宮委員を幹事に指名した。

(5) 自己紹介

各参加委員によって自己紹介が行なわれた。

(6) 人事について

原子力学会事務局より、常時参加者として、赤間（東北電）、大家（関電）、鞍本（電発）、小武守（中国電）、森下（九電）、吉田（四電）の各氏が常時参加希望である旨説明し、委員によって挙手を行ない、全員一致で参加を認めた。引き続いて、常時参加者、傍聴希望者（秋月（JNES）、帰山（関電）、上村（東電））の各氏が自己紹介した。

(7) 議事録の作成等について

原子力学会事務局より、議事録の作成は分科会委員間で行う、議事録及び資料は電子データにして原子力学会に送付するとの提案があり、了承された。

(8) PSR 実効性確保のための検討について

持丸委員より、保安院における現行の定期安全レビューの実効性向上のための検討状況として、保安検査実績の分析及び課題抽出、それらを踏まえた今後の検討方針と進め方について説明があり、議論された。

PSR 保安検査の実効性を上げるには業務量に対して現状の要員、体制では不十分ではないかとの意見に対し、現在は東京の保安院から支援しているが、将来的にはマニュアル整備して現地だけで行えるようにするとの意見、それに対し、幅広い情報を持つ東京の保安院が継続的に支援したほうが良いのではないかとの意見等があった。また、検査のあり方検討会で議論が進行している PLM とのすり合わせが大事との意見があった。いずれにしても、

PSR の理念や趣旨、基本的要求事項を明らかにすることが先決であることが確認された。

PSR によって最新プラントと同等水準の維持をするとは現行規則の完全バックフィットかとの問いに対し、現在議論中で確定したものはない、PSR で安全性が向上したことを分かり易くするために指標の導入が必要だとの意見があった。

(9) PSR 標準に係る現在までの状況について

成宮幹事より、資料 P6Ph2SC0-3-1 を使用して、現在の PSR 標準の概要と、その審議の際の主要論点について説明があり、議論された。

PSR で安全性向上のための追加措置を抽出できるよう PSR 標準の記載の充実が必要だ、最新の PSR 報告書を見ながら議論すると効率的だ、事業者から見た PSR の実績と課題の整理が肝心だ、保安活動の評価項目として化学管理は運転管理に含まれるが独立させた方がよい等の意見があった。

以上の結果、各委員に最新版の PSR 報告書を CD-R で配布すること、事業者側から見た PSR の実績と課題を次回以降に提出することが確認された。

(10) PSR 標準改訂の論点について

成宮幹事より、資料 P6Ph2SC0-3-2 を使用して、PSR 標準の改訂に係る論点について説明があり、議論された。

組織風土の評価視点に関する JNES の資料の取込みと同時進展中の PLM 議論の反映がポイントだ、組織風土の議論では本社も対象に入れるべきだ等の意見があった。また、この標準はミニマム要求で済みますのか少し高い目標まで狙うのかとの問いに対し、基本的にはミニマム要求だが個別には高めも狙う、PSR への取組み姿勢が組織風土そのものだ等の意見があった。

以上の結果、組織風土に関する JNES の評価視点をこの標準で具体化する、この標準は基本的にはミニマム要求だが個別的には高目を狙うことが確認された。

(11) 今後の審議予定について

成宮幹事より、資料 P6Ph2SC0-4 を使用して、PSR 標準の改訂に係る今後の審議予定について説明があり、議論された。

海外の状況について具体的なことは分かっていないので追加調査が必要だ、バックフィットは個別に調べる価値があるかもしれないが各国毎は必要か、今の検討工程は少し厳しいのではないかな等の意見があった。

以上の結果、海外調査の必要性について事務局で検討する、PSR に関する国の検討状況によるが当面は提案の工程で審議することが確認された。

(12) 次回の日程調整

平野主査から次回日程について提案があり、第一候補 12/21（金）午後、第二候補 12/18（火）午後とし、欠席している委員の都合を確認することになった。
（ → 11/8に調整の結果、12/18となった）

以 上